

2005年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日 2006 年 1月27日

I 概要

実践団体・担当者名	三田を知る会 (担当者：堺末廣)	
連絡先	電話 079-559-4300	
プランタイトル	『FM放送を用いた災害時情報提供支援事業』	
目的	災害の怖さ、災害に備えて準備しておくべきこと、災害時における各種情報の大切さとともにFM放送がその中で果たす役割など講演会を通じて知らせると共に、自分たちも災害時にFM放送に参加できるように災害時放送ボランティア講習を行う。高校生が地域住民と一体となって安全な地域づくりのための防災意識を高めることが出来る。	
プランの概略	三田市内及び近隣地域にある高校に呼びかけて、夏休みに「防災に関する講演会」及び「災害時放送ボランティア養成講習会」を実施する。高校生を主な対象とし、地域住民の積極的な参加も募る。 (当日の実施プログラム予定) 10時30分から12時30分 ＊ 三田市の防災担当者及び日本災害救援ボランティアネットワークの方を講師に講演会 13時30分から15時30分 ＊ 三田市のFM放送局(ハニーFM)スタジオにおいて災害時放送ボランティアを養成する講習会	
プランの対象と 参加人数	高校生、教育関係者、行政関係者、NPO法人、ボランティア団体、自主防災会関係者、個人等 52名	
実施日時	2005年7月30日	
主な実施場所	三田市フラワータウン市民センター、ハニーFM (三田市弥生が丘)	
連携した団体名、 連携の方法	連携団体の有無	なし
	連携した団体名	
	連携したきっかけ・理由	
	連携団体へのアプローチ方法	
	連携団体との 打合せ回数	
	連携団体との役割分担	

Ⅱ プラン立案過程

プラン立案 メンバーの 人数・役割	団体内のスタッフ総人数	3名
	外部スタッフの総人数	3名
	主なメンバーの 役職・役割	責任者 堺 末廣（三田を知る会 代表） 企画 堺 末廣（三田を知る会 代表） 下垣 進（三田を知る会 副代表） 渉外 下垣 進（三田を知る会 副代表） 制作 堺 末廣（三田を知る会 代表） 広報 上垣内 安子（三田を知る会 スタッフ）
プラン立案に要し た日数・時間	立案期間	2004年11月～2005年1月
	立案時間	およそ 15時間
	上記のうち打合せ回数	2時間 × 3回
プラン立案で 注意を払った点 工夫した点	○ 教育関係者、行政、NPO・ボランティア等の団体・個人を防災を考えて役立つイベントとなるようにしたい。 ○ 災害時におけるFM放送の役割を知らせるとともに、その放送を支援する枠組みを作るにはどうすべきかについての論議に多くの時間を割いた。 ○ 防災関係の他のイベントと開催日が重ならないようにする。	
プラン立案で 苦労した点	○ 参加者をどのように集めるにはどうしたらよいか。 ○ 来場者数に合わせた会場探し。 ○ 従来の防災関係のイベントとの差異、特徴をどのように示すか。	

Ⅲ 実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	3名
	外部スタッフの総人数	3名
	主なメンバーの 役職・役割	責任者 堺 末廣（三田を知る会 代表） 企画演出 下垣 進（三田を知る会 副代表） 渉外 下垣 進（三田を知る会 副代表） 資料制作 堺 末廣（三田を知る会 代表） 会場準備 上垣内 安子（三田を知る会 スタッフ） 広報 上垣内 安子（三田を知る会 スタッフ） 事務 堺 末廣（三田を知る会 代表）

準備に要した日 数・時間	準備期間	2005年2月 ～ 7月
	準備総時間	およそ 30 時間
	上記の内打合せ回数	2 時間 × 6回
教育関係への 働きかけ	働きかけた教育関係者・ 機関名	①三田市内の幼稚園、小・中・高校 ②三田市内の教育委員会
	どのように働きかけたか	①各市教育委員会に電話で依頼。 ②各園・校にチラシ等を郵送をし、参加を呼びかけた。
	結果	①各園・校内の職員に回覧及び掲示をしてもらった。
地域への 働きかけ	働きかけた地域の人・ 機関名	① 三田市内の自治会 ② 自主防組織 ③ ボランティア・NPO法人
	どのように働きかけたか	チラシの配布及び説明しての募集活動を行った。 各団体のHPにあるe-mailにコンタクトし講習会への参加を 呼びかけた。
	結果	70団体にコンタクトしたうち、3団体が案内の配布・掲示に 協力してくれた。
保護者・PTAへ の働きかけ	働きかけた保護者・ PTA組織名	地域小学校PTA、中学校保護者会や高校の父母会
	どのように働きかけたか	地域住民を通じて小学校PTA、中学校保護者会や高校の父 母会への広報を依頼した。
	結果	不明
機材・教材の 準備方法	用意した機材・教材	○機材：スクリーン、プロジェクター、PC ○教材：三田市での台風時の対応、ワークショップ資料
	入手先・入手方法	○機材：スクリーンは会場準備 PC、プロジェクターは講師が持ち込み ○教材：資料のため用紙等在庫を活用した。
	機材・教材選定の理由(な ぜこの機材・教材を選ん だのか)	○機材：映像を通じて事例を紹介するため ○教材：講師が講演内容に応じて防災の具体例等を出して説明 するため
参加者の募集	募集方法	①前述の教育関係、地域、保護者への案内配布・掲示 ②マスコミリリース（大手1紙、FM放送）
	募集期間	2005 年6月1 日～7月30 日

	参加予想人数	200名
	実際の参加人数	52名
	募集方法の成功点	○消防本部を通じて自主防災会に広報をしてもらい、防災関係への参加意識が高かった。 ○ボランティアセンターや自治会で防災関係イベントを考えているところへの募集は参加してもらえた。
	募集方法の失敗点	○教育委員会への案内送付時期が遅れてしまったため、管轄内の各小中学校に案内をしてもらえなかった。もっと早くコンタクトをとれば校長会で案内をもらえた。 ○e-mailにより参加を呼びかける際に、既に使われていないアドレス等もあり、返信されてしまうケースも多かった。
準備で苦労した点・工夫した点		○主として土日の活動のため地域の方に連絡をする際に、自治会やボランティアの方に土日はなかなか連絡がつかずに苦労した。 ○三田市は災害が少ないために、市民に防災にたいする意識が低くて、なかなか趣旨が理解してもらえなかった。

Ⅳ タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2004 年 11月	○ FM放送へのコンタクト ○ 外部スタッフへの呼びかけ ○ 11/6 第1回打合せ 「企画内容について」		
12月	○ 12/4 第2回打合せ 「企画書の作成」		
2005 年 1月	○ 1/8 第3回打合せ 「申請書の作成」 「役割分担について」		
2月		○ 2/5 第4回打合せ 「FM放送を用いた災害時情報提供支援事業」	
3月		○ 3/5 第5回打合せ 「FM放送を用いた災害時情報提供支援事業」	
4月		○ 4/2 第6回打合せ 「FM放送を用いた災害時情報提供支援事業」	
5月		○ 5/7 第7回打合せ 「FM放送を用いた災害時情報提供支援事業」	
6月		○ 6/4 第8回打合せ 「FM放送を用いた災害時情報提供支援事業」	
7月		○ 7/2 第9回打合せ 「FM放送を用いた災害時情報提供支援事業」 ○ マスコミリリース（参加者募集、当日取材依頼） ○ 当日配布資料印刷 ○ 看板の準備 機材・備品の準備	○ 7/30 講演会・講習会開催
8月			○ 報告書作成打合せ
9月			○ 報告書原稿作成
10月			○ 報告書作成
11月			
12月			

V実践の詳細 【B. イベント】(短期集中型のプログラムを45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	「防災に関する講演会」及び「災害時放送ボランティア講座」			
実施日	7月30日			
所要時間	45分×2	30分	45分×2	30分
達成目標	地域及び国内外の防災に関する実情を知る	スリランカの災害と防災を自分事として考える	F M放送の有効性と自分たちに出来るアナウンス	F M放送で自分たちに出来るアナウンス
生成物				
進め方 (箇条書き)	● 講演 ①「三田市の台風時の対応」 ②「国内外の災害救援に携わって」	● 講演とワークショップ - 講演 ①「スリランカ津波被害を経験して」 - ワークショップ ②「災害に遭遇したときになにを持って逃げるのか」	● 説明と実践 ① F M放送の有効性の説明 ② 災害時のアナウンスの実践	● 説明と実践 ① 災害時のアナウンスの実践
ツール (特別に用意したもの)	● プロジェクター ● スクリーン ● PC	● プロジェクター ● スクリーン ● PC ● 配付資料	● F M放送スタジオ放送設備	● F M放送スタジオ放送設備
場所	三田市立 フラワータウン市民センター		ハニーF M放送スタジオ	

VI実践後

参加者への アンケート結果	参加者の中からピックアップして聞き取り調査を行った。 ○ 「他地域で行われていた取り組み事例を知ることができ、大変参考になった。」 ○ 「防災教育を志す方と知り合いになる機会となり、心強い機会となった。」 ○ 「自分のところが行う講演会等の参考になった。」	
成果として 得たこと	○ 他の団体でも、防災教育の普及を進めていくことの参考となった。 ○ 団体内スタッフ、外部スタッフとの連携体制が強くなった。	
成果物	（学習指導案・指導計画書・配布物・ワークシート・報告書・掲載記事等。データがあればファイルを添付して下さい。） ○ 講演会・講習会報告書 ○ 開催案内チラシ ○ 講演・ワークショップ、講習会参加者写真	
広報方法	広報した先	参加者募集時にマスコミリリース
	広報の方法	マスコミリリースを講演会の2週間前にファックスで流した。
	取材にきたマスコミ	毎日新聞（事前取材）
	広報された内容（掲載された記事・番組等）	7月28日付け三田版に掲載
	成功点	○ 開催日の直前に取材申込みがあった。
	失敗点	○ 他のイベントと重なり当日の取材が無かった。
全体の感想と 反省・課題	○ 初めての講演会・講習会としては参加者が少なかったが成功に終わったと考えているが、今後どのようにこの輪を広げていくかが大きな課題である。 ○ 効果的に参加者募集をするための情報をどのように流すのかを早急に検討したい。	

今後の予定	来年度以降の進め方	○ 来年度は、防災週間に合わせてワークショップを開催したい。
	是非実施してみたい 取り組み	○ 他地域の先駆的な事例についても紹介できるよう情報を収集していきたい。
自由記述	○ 今回の活動をきっかけに、これまで見えてこなかった他の団体の防災への取組が見えてきて連携が生まれた。	